

# 令和5年度 外務大臣表彰

## 台湾人受賞者に対する表彰式の実施について

外務大臣表彰は、日本との友好親善関係の増進に特に顕著な功績のあった個人および団体について、その功績を称えるものです。令和5年度は台北事務所の推薦により張炳煌氏、財団法人語言訓練測驗中心、東亜経済協会が、高雄事務所の推薦により財団法人台南市台日文化友好交流基金が受賞されました。ご功績に対し、衷心より敬意と感謝を表します。

### 張炳煌 中華書学会会長、淡江大学教授兼文錙芸術中心主任

張炳煌氏は、中華テレビの番組『每日一字』に1981年から19年間、毎日出演し台湾に書道を普及させた著名な書道家。当協会台北事務所が2002年に移転した際、亜東関係協会（当時）より同人の書が記念に贈呈されました。また、1989年から中華書学会会長を務め、日台を含む各地で書道展を開催し書道家との交流を実施。国際書道連盟総会理事長、淡江大学教授兼文錙芸術中心主任、台湾デジタル書画芸術学会理事長等数々の役職を歴任し、日本でも多くの個展や講演会等に参画し、日台書道文化の交流と発展に大きく貢献されました。

### 受賞のことば

この度、台北において片山代表から、日本の外務大臣表彰を伝達いただけることを大変光栄に存じます。また、今回の受賞のため伝達式を開催いただきました日本台湾交流協会に特に感謝申し上げます。またご多忙の中、本日の式にご出席賜りました皆様に感謝申し上げます。

このような名誉ある賞を頂いて今思い出すの

は、大変昔の話になりますが、まだ学生の時分の話です。私は50年以上前、日本の書道団体から賞を頂いたことがきっかけで初めて日本へ渡りました。その際、國華ゴルフ場の創始者で大阪の華僑でいらした何國華先生に連れられて、日本各地で芸術界の多くの先輩方にお会いする機会を頂戴し、日本との交流が始まりました。

30歳までに、私は日本各地で書道の個展を12回行いました。また、台湾で広く放映された中国書道を紹介するテレビ番組「每日一字」（中華電視制作）に計25年近く出演しました。この間、日本での個展開催はありませんでしたが、当該番組制作に先立って、台湾の関係者を連れて日本へ赴き、日本の書道の発展と書道に用いる道具の産地を紹介し、理解と交流を深めてもらいました。また、日本の大手出版社であるユーキャンと協働で、古典である名筆作品の再現度の高い復元や詳細な解説を掲載した書籍の出版を行いました。

淡江大学で教鞭をとり、書道研究室を立ち上げた際、当時の同大学校長（現在は董事長）であった張家宜博士の協力を得て、デジタルe筆の研究開発を手がけ、このプロジェクトで日本との交流



が更に広がりました。AIの技術革新が目覚ましい現在において、伝統と科学技術を用いた手法は、日本の書道界の大きな支持を得ました。今でも、毎年、日本の複数の大学から淡江大学へ私の書道の授業の視察に訪問団が来たり、オンラインで授業を見学したりしています。また、台北の故宮博物院に所蔵された国宝の書道作品について、デジタル技術を用いた形で日本の皆さんへ作品の紹介を行っています。

この50年余り、台湾を訪れた多くの日本の書道団体をもてなし、展覧会の開催や交流などに携わってまいりました。具体的には、日本書道協会、毎日書道会、産経国際書会等が台湾で展覧会を開催する際に協力し、規模の面でも影響力の面でも大きな事業を多く手がけました。

日本と台湾がともに書道を始めとする伝統文化芸術交流を通じて、さらに緊密に連携することができると信じております。私も、微力ではありますが、より良い未来のためにも引き続き努力を続けて参ります。本日は誠に有難うございました。皆様のご多幸とご健康をお祈りし、私の挨拶といたします。

### 財団法人語言訓練測驗中心

財団法人語言訓練測驗中心は語学試験等を実施する専門機関として1986年に設立。現地で日本語能力試験（JLPT）が開始された1991年より現地試験実施機関としてJLPTの実施に携わり、広報、受験者への連絡、試験会場手配、試験官の訓練、障がいを持つ受験者の対応等、JLPTをきめ細やかかつ円滑に実施・運営し、台湾における日本語教育を支える存在として長年にわたり活動されてきました。さらに、2002年からは日本留学試験も実施しており、JLPTと同様に、円滑な運営に貢献しており、台湾における日本語の普及に大きく寄与しました。

### 受賞のことば

L TTCは今年で72歳になりました。私やご臨席の皆様よりずっと年上です。

L TTCは1951年に設立され、当初は英語研修センターとして、アメリカへの研修者のための英

語研修や事前講義を行っていましたが、台湾における語学研修・試験のニーズの変化に応じて、1986年に語言訓練測驗中心（L TTC）として再構築し、現在では英語、日本語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国語などを含む少なくとも6か国語の語学研修や語学試験を提供しています。

L TTCが実施する試験のうち、日本語能力試験（JLPT）は1991年から日本台湾交流協会の依頼を受けて実施しており、累計受験者数は156万人を超えています。人口比当たりでは台湾が世界一であり、JLPTに対する台湾の日本語学習者の支持と信頼が窺えます。また、日本留学試験（EJU）は2001年の開始以来、累計受験者数は2万人を超えるとともに、日本台湾交流協会が提供する日本留学奨学金の判定基準となっております。当奨学金制度は多くの日台文化交流の場と人材育成に貢献してきたものであり、心から感謝申し上げます。

当センターがJLPTの実施に携わって33年目、日本留学試験も23年目となり、この度、公益財団法人日本台湾交流協会の推薦により「外務大臣表彰」を受賞することができ、大変光栄に思います。本日の重要かつ記念すべき日に際し、これら2つの事業の開始時からの担当者であり、L TTCの元 同僚である 周函均様と林麗琴様に特別な感謝の意を表したいと思っております。御二人の見識、経験、指導により、これら2つの試験の実施にあたり強固な基盤が築かれました。

同時に、いつも私たちを支えてくださり、貴重なアドバイスと方向性を示してくださっているL TTC理事会と日本語能力試験共同委員会のメ



ンバーの皆様に感謝申し上げます。本日は、この盛大なイベントにご招待できることをとてもうれしく思います。

外交部外交及国際事務学院の李新穎副院長と令夫人の黒田節様、そして台湾大学の朱秋而教授と曹景恵主任、ご臨席ありがとうございました。

過去の72年間を振り返ると、LTTCは数え切れないほどの受講生や受験生の育成し、評価をしてきました。そして、これらの活動を通して、夢にたどり着くための種を蒔いてきました。LTTCは今後も、一貫して厳格な姿勢を持ち、多様かつ革新的な形で試験を実施しサービスの質を高めていきます。また、より多くの受験者が夢の実現に向けた第一歩にチャレンジできるよう、受験者の利便性を高めるための新しい試験会場の増加についても前向きに検討していきたいと思っております。

最後に、日本台湾交流協会の皆様、ご臨席の皆様、本日までご出席がかなわなかった皆様、そしてLTTCの皆さん、これまでのご尽力に改めて感謝申し上げます！台湾と日本の間でさらにすばらしい物語を創り、より多くの夢の実現を見届けるられるよう、これからも協力し合っていきたいと思います。ありがとうございました。

## 東亜経済協会

東亜経済協会は、2014年、前身である東亜経済人会議台湾委員会が組織機能強化のため設立。1973年より開催され、2023年に第50回目の開催を迎えた東亜経済人会議の業務と東アジアに関する業務を継承。同会議は、日台関係において純民間ベースによる経済交流の維持・拡大が要請される中で発足し、日本と台湾双方の民間企業による最大規模の経済・貿易交流のプラットホームとして長い歴史と伝統があります。同協会は台湾側民間企業の取り纏め等を担い、日台双方の投資環境の改善や貿易障害の撤廃や日台双方の経済発展促進に貢献されました。

## 受賞のことば

泉裕泰・台湾日本交流協会代表、服部崇・同副代表、蘇嘉全・台湾日本関係協会会長、黄茂雄・

東亜経済協会名誉会長、林清波・同名誉副会長、李傳洪・常務監事、吳東進・常務理事、張宏嘉・常務理事、葉菊蘭・総統府資政、我々の良きパートナーである工商協進会の吳東亮理事長、日本工商会の竹田理事長、御臨席を賜りありがとうございました。

東亜経済協会を代表して日本の外務大臣、交流協会の泉代表、服部副代表及び交流協会の皆様に、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

東亜経済協会は、50年前に辜振甫委員長のリダーシップの下設立され、黄茂雄・名誉会長及び御臨席の理監事の皆様の多大なるご尽力を賜り、本日、このような名誉ある外務大臣表彰を頂くに至りました。この栄誉は、ここにご出席の東亜経済協会の会員、および我々の良きパートナーである工商協進会、日本経団連の皆様のおかげです。

過去50年間、たとえ深刻なコロナ禍の中にあっても、会議は一度も中断されることなく開催され、台日の経済交流に貢献してきました。

日台間の経済交流への貢献は、枚挙にいとまがありません。例えば、日台の断交により日台間の航空路線が一時断絶しましたが、先人方の努力により1975年に復航しました。1982年には、我々の諸先輩方が台湾当局に要請し、それまで規制されていた日本製品の台湾への輸出が解禁されました。また、東日本大震災後、東北日本産食品の規制解除にも協力してきました。そしてここ3年間は台日の半導体協力が拡大する中、当協会は、台湾当局から台日半導体サプライチェーンを担う重要なプラットフォームとしての役目を委託されました。今後、日台双方の経済発展促進に一層の貢献して参りますので、引き続き皆様のご指導をよ



ろしくお願いいたします。最後に、ご臨席の皆さまのさらなるご発展と、ご健康を願い、私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

## 財団法人台南市台日文化友好交流基金会

財団法人台南市台日文化友好交流基金会は、2009年5月に台南県台日友好交流協会として設立。台南市行政機関、民間団体の日本との交流促進を支援することを活動目的に掲げ、これまでに数多くの日台交流事業や日本文化紹介事業を主催してきました。また、日本企業の投資環境整備のための交流会や日台農業交流に係るイベントなども主催・共催している他、日本、台南市双方の行政関係者、議員、民間団体等の往来に係るコーディネート業務等にも精力的に取り組み、日台の関係強化や相互理解に大きく貢献されました。

## 受賞のことば

この度は外務大臣より財団法人台南市台日文化友好交流基金会が表彰されましたことを大変光栄に思います。

2009年5月、蘇文智台南県長（当時）を理事長とし、台南市や民間団体が日本との交流を促進することを目的に「台南県日台友好交流協会」を設立いたしました。その後、頼清徳台南市長（当時）が理事長を務め、県と市が合併後「台南市日台友好交流協会」と改称し、台南市と日本の各県・市町村との友好交流を深めてまいりました。第3代会長が郭貞慧となりましてからは更に交流が活発となりました。宮城県と台南市の高校間の国際教育交流、宮城県知事村井嘉浩様より「宮城県観光大使」への任命、台日湾生同窓会の発足、八田與一様（運河の父と呼ばれ、台南の烏山頭ダムを建設したことで知られる）の日本の中学校教科書への記載、京都市との友好都市締結、鹽水月津港ランタン祭りに於ける青森県のねぶた灯籠「鹿島

大明神と地震大鯨」の展示などです。

文化、芸術、観光、教育などさまざまな分野における日台間の良好な交流の下、近年は福島県、山口県、広島県、四国などこれまで台南市と交流のないまたは少ない町の開拓に力を入れており、日本の山口県の知事村岡嗣政様には昨年、友好交流都市を結ぶために台南を訪れていただきました。また、サトウキビの父・金子昌太郎氏の出身地であります群馬県前橋市におきましては、台南市長黄偉哲氏自らが台南市の農産物特産品や土産物業者を率いて道の駅・前橋赤城で第1回「台南フェスティバル」に参加し、農産物特産品や経済貿易分野での交流も深まりました。

もちろん、他県や他市との文化芸術方面の交流も続いております。2023年には、台南市文化資産管理所の協力のもと、図鑑「1930烏山頭」を日本で出版し、日本の各小学校に寄贈いたしました。今後、台南、台湾の伝統工芸が日本の美術館や博物館を通じて日本の皆様に伝わりますことを期待しております。

最後に、私共を推薦してくださった日台交流協会に感謝いたします。台湾南部では唯一の受賞であり、このような高い評価をいただいたことに感謝しております。今後も、公的機関や民間団体を通じて、日台交流の促進に努めてまいります。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます！

